

2010 年 7 月 8 日
郵便局株式会社北海道支社

オリジナルフレーム切手『北海道遺産』の販売開始

郵便局株式会社北海道支社（札幌市中央区北 2 条西 4 丁目 3 番地、支社長 植村 邦生）は、下記のオリジナルフレーム切手の販売を開始します。
このオリジナルフレーム切手は、北海道遺産を題材にしたもので、北海道の郵便局で限定販売するものです。

記

1 切手の概要

セット名称	北海道遺産フレーム切手
販売開始日	平成 22 年 7 月 23 日（金）
デザイン	別紙のとおり
販売部数	5,000 シート（予定）
販売郵便局	北海道の全郵便局（1,215 局）※簡易郵便局を除く。
商品内容	オリジナルフレーム切手×1 シート（80 円切手×10 枚） 解説紙×1 部
販売単位	セット単位で販売します。
販売価格	1 セット 1,300 円

2 その他

本フレーム切手は、通信販売を行いません。販売郵便局でお買い求めください。

以 上

【報道関係の方のお問い合わせ先】

郵便局株式会社北海道支社企画部 （広報・CSR 担当）

電話：（直通）011-214-4005（FAX）011-214-4404

【お客さまのお問い合わせ先】 平日：9：00～17：00

郵便局株式会社北海道支社営業本部（物販担当）

電話：（直通）011-214-4184



- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料全納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に満印がかかることがあります。

白雲紅梅製藥有限公司



北海道遺産とは

次の世代に引き継ぎたい北海道の大切な宝物です。豊かな自然はもちろん、北海道に生きてきた人々の歴史や文化、生活、産業など有形・無形の財産の中から、道民参加によって選ばれました。

平成13年10月に第1回選定分25件が、平成16年10月に第2回選定分27件が決まり、52件の北海道遺産が誕生しています。

北海道遺産

次世代に引き継ぎたい北海道の宝物

旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群

士幌町



昭和初期に十勝内陸の産業振興を目的して建設された第1級の鉄道遺産。市民と学生が一体となった運動の結果、34橋梁が保存された。中でもタツシバツのアーチ橋は、渡平湖の水位によりその姿を変える「幻の橋」として近年人気が高まっている。地元の高い手さとの積極的な活動は産業遺産の保全・活用モデルとして全国的に知られている。

登別温泉地獄谷

登別市



地獄谷は北海道を代表する温泉地・登別温泉最大の景勝地。直径450mの谷底には大地獄を中心に15の地獄があり、毎分3,000ℓの水を出している。登別温泉は「温泉のデパート」と形容され、11の泉質が湧出しており、これは世界的にも珍しい。地獄谷の周辺には蒸気温度が40～50度になる大湯湖、洞窟から白煙が立ち上り、高山植物の名所としても知られる月洞山、登別朝陽林などが広がる。

北限のブナ林

里内町



ブナは温帯を代表する樹種で、北海道では渡島半島だけに分布する。里内町はその北限で、太平洋側の長万部と日本海側の森部を結ぶ里内低地帯が境界線。里内町内では、自然の恵みを感じるブナセンターや自然学校の開設など、ブナ林が貴重な生き物多様性を活かした取り組みが進められている。また、地元の七瀬町には郷土に在ったドイツ人ガルトナーの植林したブナ人工林が残る。

根釧台地の格子状防風林

中標津町など



中標津町、西標津町、標津町、標津町にまたがる格子状防風林は、スペースシャトルからも撮影されたように、そのスケールにおいても地球規模的な、北海道ならではの雄大なもの。幅180m、総延長648kmの林帯は、防風効果だけでなく野牛や鹿のすみかや移動の経路としての機能も果たしている。開拓時代の植民地地帯を示す歴史的意義も持つ。

天塩川

流氷町など



天塩川は延長256km、北海道第2位の長河川。松浦武蔵公は天塩川内陸調査の途上で「北海(知)道」を命名したとされる。川の名前の由来となったアイヌ語で「泉」の意味が最も多く存在し、河口までの約160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー遊歩道としても知られ、愛好者たちは20カ所のカヌーポイントから大河を下っていく。

森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」

函館市



「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産1トン機関車。昭和3年、大瀬戸一武利森林鉄道に配置され、国有林から伐り出した太極や生活物資の搬送に使われてきたが昭和36年に廃止。地元で長い期間昭和51年、北見管区から巨摩市に譲渡され、町は「森林公園」の一角に保存され、機関車を走らせた。動態保存は道内では唯一のもの。

雨竜沼澤原

雨竜町



沼澤山地の標高850mにあり、北海道の山地沼澤の中でもっとも大きな沼澤。大小の沼澤の地帯(わづ)が百数十あり、独特の景観を見せる。沼澤植物も豊富で、昭和39年に道指定天然記念物。平成2年に国営・天塩・雄勝国定公園特別保護地区に指定された。「雨竜沼澤原を愛する会」による活動は、沼澤を未来に伝える人間と自然の共生を訴えている。

延神大神宮渡御祭と江差追分

江差町



延神大神宮渡御祭の起源は約370年前にさかのぼる。その年のニシンの豊漁に感謝を込めて行われたお祭りで、現在も毎年8月9日～11日に3日間は祭り一色となる。13軒の山車(やま)が渡御祭の調べに合わせて町内を回り歩く。また、江差追分は中山道の馬子唄をテーマに、北国の美しい風景にもあふれる多くの先達に想い馳せられてきた。日本国内だけでなく、海外にも多くの愛好者を持つ、はるかに古い江差のニシン祭りを現代に伝える。

ニッカウスキー余市蒸溜所

余市町



理想のウイスキーづくりをもとめた竹鶴政孝は、選んだ空気と水でもあまり気温の上らない気候に加え、近くに良質なビートに恵まれた余市をその地として選んだ。ニッカウスキー余市蒸溜所は昭和11年、ポットスチルに火が着いてからトウスキーの製造が開始されて以来、当時と変わらない製法でウイスキーの蒸餾、貯蔵を行っている。

札幌苗穂地区の工場・記念館群

札幌市



札幌市の苗穂川以東は、豊平川の伏流水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も苗穂醸造をはじめ、さまざまな工場や倉庫が立ち並び、下町的な雰囲気を醸している。苗穂地区には北海道建設技術館、サッポロビール博物館、苗穂乳業史料館は内容も充実し、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成する。

ピアソン記念館

札幌市



アメリカ人宣教師G.E.ピアソン夫妻の私邸として1893年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着点に選んだ地が「アイヌ語で「地の果て」を意味する野付(現在の北見)」。晩年遺稿や著書など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に受け継がれている。設計者は近江兄弟製鉄社としても知られているW.M.ヴォーリス。

江別のれんが

江別市



開拓使は内務省建築資材にれんがを奨励し、道内8地区17の工場で造られたれんがによって、北有線市れんが庁舎をはじめ多くの名建築が生まれた。大正以降、全道一の陶土地帯である江別の野幌製磚へとれんが製造の中心が移り、現在も3つの工場が稼働している。市内には小学校やサイロ、民家など400棟以上のれんが建築物が美しい姿で残っている。

内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群(中笠土甕)

函館市、伊達市など



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅渚地域には現在91ヶ所の遺跡が確認されている。これまでに出土した遺物は400万点を超えており、青森県野火路で発掘された「中笠土甕」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北笠土甕は、縄文早期(7000年前)～中期(6000～4000年前)の最盛期で、住居や倉庫にほとんどない「水堀」の築造も、発見されている。

ジンギスカン

北海道各地



ジンギスカン料理の発祥については諸説があるが、北海道でもっとも広く、かつ特徴的に発達した。大抵にも炭火で焼くのが、味付けなど羊肉を美味しく食べる工夫が凝らされ、新しい料理として北海道で確立したといえる。観光の魅力の一つであるとともに、地元でも定番であるジンギスカンは、箸を握る人と人をつなげる役割も果たしている。